与えられたものを受け取る

お念仏に生きる人々の生き方には共通して大きな特徴があります。
それは「与えられたものを喜んで素直に受け取る」という生き方です。

ここで言う与えられたものとは、私に関わるすべての「もの」と「こと」のことです。
それは例えば、冨や健康や名声や幸福であったり、逆に貧乏、病気、不名誉、不幸といったものであります。

よく世間では、「吉凶禍福は神や仏が与える」と言われますが、お念仏の教えには、そのような考え方はありません。

それでは、誰が吉凶禍福を与えるのかと言いますと、しいて言えば「一大道理」が与えたということになります。
一大道理とは、誰が作ったのでもない、この宇宙大自然を貫く不変の法則・真理のことです。
仏教ではこの道理を「因果の道理」とか「縁起の法則」と申します。

つまり、与えられたものは、誰かが与えたのではなく、因果必然の道理として、こうなるべくしてこうなったと見ていくのが仏教の立場です。

「こうなったのは、こうならねばならぬ一大道理（因果必然の道理）があったのだ」ということです。

ところが、私たちは自分にとって都合の良いものを与えられると喜んで受け取りますが、都合の悪いものを与えられた時は、中々素直には受け取れません。まして喜んで受け取ることなど到底出来ません。

しかしここなんです。たとえ自分にとって不都合なものであっても、それを受け取っていくのです。なぜなら、すでに与えられたことが一大道理だからです。そうならねばならぬわけがあってそうなったのです。ですから、それを受け取って生きていく以外に、私の生きる場所はないんだと見極めることが道理にかなった智慧ある生き方なのです。

確かに、気に入らないものを喜んで受け取ることは大変困難なことでありますが、親鸞聖人は「与えられたものを引き受けて、その中で自分のいのちが尽せるような、そういう生き方が出来るということが〈助かった〉ということだ」と明らかにお示しくださっているのです。

ここで、お念仏の教えに生きた方々の言葉を紹介します。
★自分の背負わねばならない荷物を背負って力一杯生きていける身になる・・・それが浄土真宗でいう、親鸞聖人の仰る〈助かった〉ということです　　大谷派僧侶・松扉哲雄
★南無阿弥陀仏は、そうなったわけがあったということに、素直に従うていくんです。念仏は、〈はい〉なんです。ただということは、はからいが入らないんです。ただ〈はい〉です
山腰大樹
★人から見たらあんな気の毒な人はおらんというような境遇になっても、それを一つも苦しんだり悩んだりする必要のない心を頂戴出来た姿を、浄土真宗でおたすけというんです
山腰大樹

★お念仏の世界は、どうなすか、どうなるかではなく、なっていることをいただくのです
西　教惠
★念仏は、私に、ただいまの身を納得していただく力を与えて下さる　鈴木章子
★すべてがよかった。すべてを受け取る　塩尻うめ
★ようこそようこそ南無阿弥陀仏　足利源左

これらの言葉から、念仏者の生き方というものが、お分かり頂けると思います。
まさに、現在安住…与えられた現在に満足する…の生き方と言えるでしょう。

平成２６年７月　「光明寺だより８６号」より